

TOKYO 飲食・理美容 開業レポート ver1

<調査方法>

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、東京の店舗(飲食/理美容)に関する調査結果を発表いたします。

東京飲食店開業ランキング 2024年1月～12月

東京の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5	…P4
東京/市区町村別 飲食店開業数ランキング	…P5
東京の開業動向と連動する4つの市場トレンド	…P6～7

東京飲食店ジャンル別開業ランキング 2024年1月～12月

東京/ジャンル別 飲食店開業数ランキング	…P9
業態の多様化が進む東京の飲食シーン	…P10
全国と比較した東京特有の飲食店3ジャンル	…P11

東京理美容開業ランキング 2024年1月～12月

東京の理美容開業 市区町村ランキングTOP5	…P13
東京/市区町村別 理美容開業数ランキング	…P14
上位5区で約4割を占める開業集中傾向	…P15
“都市型トレンド”と“生活密着”の両立がカギ	…P16

東京 × 飲食&理美容 × 人口数 ～人口と開業数の関係～

東京 × 飲食&理美容 × 人口数	…P18
人口と開業数の関係は？	…P19
人口10万人あたり開業数から見る「開業密度」の違い	…P20

TOKYO 飲食・理美容 開業レポート ver1 まとめ

「世界のTOKYO」と「生活の東京」が交差する開業のかたち	…P22～23
-------------------------------	---------

東京飲食店開業ランキング 2024年1月～12月



東京の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5



東京は多様な人々が集まり、国内外のビジネスや観光の拠点として進化を続けています。インバウンド需要の回復や再開プロジェクトの進行により、飲食業界も理美容業界も新たな局面を迎えています。

本レポートでは、東京都の飲食業界および理美容業界の開業状況をデータで分析し、各エリアの最新動向や市場トレンドを深掘りしました。ビジネス戦略の立案や、地域特性を踏まえたマーケティングのヒントとして、ぜひご活用ください。

東京の飲食店開業 市区町村ランキングTOP5

2024年1月～12月の飲食店開業数ランキングを発表いたします。

東京の飲食店開業数ランキングトップ5には、以下の市区町村がランクインしています。



1位 新宿区(1081件)

首都圏最大級の繁華街とビジネス街が融合するエリアで、飲食店の集積度は都内随一。歌舞伎町や新宿三丁目周辺を中心に、訪日観光客向けの店舗や多国籍料理店の出店も目立ちます。



2位 渋谷区(644件)

若者文化とIT企業が共存する渋谷駅周辺や、代官山・恵比寿といった洗練された街並みが特徴です。トレンド発信地としてのポテンシャルが高いエリアです。



3位 中央区(517件)

銀座・日本橋といった都内有数の商業地を抱え、観光客・ビジネスパーソン双方をターゲットにした飲食店が多いのが特徴です。



4位 港区(474件)

六本木・赤坂・麻布といった国際色豊かな街並みが特徴で、ビジネス街・住宅街・観光地の顔を併せ持ちます。



5位 千代田区(467件)

オフィス街の再開発(東京駅周辺・東京ミッドタウン八重洲など)に連動し、ランチ需要やハイグレードな会食ニーズに対応した新店舗が多数出店。

東京/市区町村別 飲食店開業数ランキング

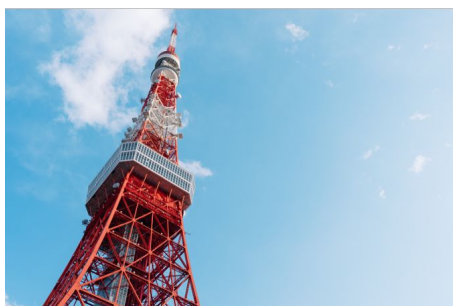
2024年1月～12月の東京の飲食店開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年1月～12月 東京開業件数合計 8,326件

飲食 / 2024					
	市区町村	開業数			
	東京ALL	8,326			
1	新宿区	1081	32	羽村市	37
2	渋谷区	644	33	小平市	36
3	中央区	517	33	福生市	36
4	港区	474	35	青梅市	35
5	千代田区	467	36	狛江市	34
6	豊島区	368	37	東村山市	33
7	大田区	327	38	日野市	30
8	台東区	304	38	東大和市	30
9	江東区	298	40	昭島市	29
10	世田谷区	293	40	多摩市	29
11	杉並区	293	42	小金井市	28
12	中野区	273	43	三鷹市	23
13	品川区	248	44	国立市	19
14	足立区	246	45	清瀬市	17
15	江戸川区	211	46	東久留米市	16
16	文京区	200	46	稲城市	16
17	葛飾区	167	48	あきる野市	14
18	北区	162	49	西多摩郡奥多摩町	9
19	板橋区	139	49	大島町	9
20	墨田区	133	51	武蔵村山市	8
21	武蔵野市	119	52	八丈島八丈町	4
22	練馬区	117	53	西多摩郡日の出町	2
22	八王子市	117	53	西多摩郡檜原村	2
24	町田市	116	55	西多摩郡瑞穂町	1
25	目黒区	101	55	利島村	1
26	荒川区	95	55	新島村	1
27	立川市	94	55	三宅島三宅村	1
28	西東京市	58	55	小笠原村	1
29	府中市	57	60	神津島村	0
30	国分寺市	55	60	御蔵島村	0
31	調布市	51	60	青ヶ島村	0

2024年1月から12月にかけて、東京都全体で8,326件の飲食店が新規開業しました。

東京の開業動向と連動する4つの市場トレンド



東京都内では、都心部を中心に多様な飲食店の開業が続いており、2024年は全体で8,000件を超える開業数が確認されました。

ビジネス街や繁華街のみならず、周辺の住宅エリアや郊外地域でも着実に新規出店が進み、地域特性を反映した店舗展開が進んでいます。

近年の飲食業界トレンドとの連動

◎ インバウンド需要の本格回復

2024年、日本への訪日外国人旅行者数は3,686万人 と、2019年比で+15.6%の過熱ぶりが見受けられました。

特に浅草や月島、銀座エリアでは、外国人観光客の姿が昼夜問わず見られ、老舗を中心に英語対応の強化やメニュー多言語化が進んでいます。

◎ 高級店・ミシュラン級レストランの存在感増大

2024年の「Asia's 50 Best Restaurants」では、東京のフランス料理店が首位に輝きました。東京は他にも上位に複数のレストランがランクインしており、世界水準の高級店が数多く集積する都市としての存在感を改めて示しています。

さらに、2025年版でも東京から9店舗(うち2024年版首位店も継続ランク入り)の入りが報告され、世界水準の高級レストランの存在が顕著です。



「Asia's 50 Best Restaurants」とは？

「Asia's 50 Best Restaurants」(アジアのベストレストラン50)とは、毎年発表されるアジア各国のトップレストランランキングです。

飲食業界のプロフェッショナル(レストラン評論家、シェフ、経営者など)による投票で決定され、アジア各国のレストラン業界で非常に権威ある賞とされています。

東京の開業動向と連動する4つの市場トレンド

◎ 生活圏ニーズの多様化／小型業態の拡充

パブ・居酒屋業態の売上は2023～2024年を通じて回復傾向。
特にテイクアウトやデリバリーを併用する小型店が住宅地エリアで増加しています。

“itameshi”（イタリアン×和）のような新業態も話題となり、都心から郊外までファミリー層や感度の高い層の支持を得ています。

◎ 持続可能性と女性の活躍がキーワード

女性寿司職人の活躍や独自の老舗系店舗が注目を集めており、ダイバーシティ面でプラスの変化が見受けられます。

一方で「ミッドナイト・ダイナー」のようなコミュニティ重視の小規模飲食店も再評価され、温かみのある地域密着型店舗運営が注目を浴びています。

女性寿司職人の活躍と多様性

東京都内では、これまで男性中心だった寿司業界で、女性職人の活躍が増えています。

<例>

- 銀座や築地周辺では、数十年続く老舗寿司店で女性職人がメインカウンターに立つ事例が増加。
- 海外で修行を積んだ若手女性職人が、逆輸入的に東京で独立開業するケースも。
- 新業態として、女性オーナーが手掛ける寿司×ワインバーや、寿司×アート空間のようなコンセプト店舗も登場し、女性客や若年層を中心に支持を集めています。

訪日外国人客や若年層からは、細やかな接客や多言語対応が好評で、東京ならではの体験価値を提供しています。寿司業界におけるダイバーシティの進展は、地域の魅力をさらに高める要因となっています。

東京の飲食業界、今後は？

今後は、都心部ではインバウンドや多言語対応、高級・個性派業態での差別化、住宅地では地域住民のニーズに応えるテイクアウトやデリバリー対応、小型店舗業態の充実が鍵となるのではないのでしょうか。

また、自治体や支援機関による女性起業支援や中小型店舗向けの補助金・教育プログラムの整備など、地域全体での飲食業界支援の取り組みが求められています。

東京飲食店ジャンル別開業ランキング 2024年1月～12月



東京/ジャンル別 飲食店開業数ランキング

次に、2024年1月～12月の東京の飲食店をジャンル別に見てみました。
ジャンル別の開業数ランキングは以下のような結果となりました。

飲食 / 2024		
	ジャンル	開業数
	ジャンルALL	8,326
1	飲み屋・居酒屋	964
2	カフェ・喫茶店	646
3	バー	611
4	各国料理	533
5	ラーメン	325
6	専門料理店	281
7	中華料理	255
8	一般レストラン	249
9	お菓子・スイーツ	234
10	和食・郷土料理	210
11	焼肉	203
12	寿司店	158
13	焼き鳥	134
14	肉調理店(焼肉・焼鳥・ステーキ除く)	113
15	カレー店	94
16	ファーストフード	86
17	麺類(そば)	73
18	キャバレー・ナイトクラブ・ラウンジ	73
19	お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等	65
20	麺類(うどん)	50
21	丼・定食	44
22	鍋料理	31
23	ステーキ	25
24	分類できない飲食店	5
25	配達飲食サービス業	0
26	料亭	0
27	持ち帰り飲食サービス業	0
28	その他飲食店	2864

業態の多様化が進む東京の飲食シーン

2024年、東京都内で新たに開業した飲食店は合計8,326件。

その内訳をジャンル別に見ると、居酒屋・カフェ・バーの3業態がトップ3を占め、依然として「気軽に立ち寄れる店」へのニーズの高さがうかがえます。

一方で、多国籍料理や専門料理、スイーツ業態などの多様化も進んでおり、都内の食文化の幅広さが際立つ結果となりました。

1位 飲み屋・居酒屋(964件)

都内の高密度な街並みと、徒歩圏に集中するビジネス街・繁華街を背景に、仕事帰りや短時間利用のニーズが高まるなかで、居酒屋の出店が活発化。

新橋や赤羽、中野といった“飲み文化”が根付く街では、立ち飲み・せんべろ系のカジュアル業態が引き続き人気です。個人店から大手チェーンまで、都市型ニーズに応える柔軟な店舗設計が増えています。

2位 カフェ・喫茶店(646件)

「カフェ×ワーク」「カフェ×ライフスタイル」といった複合型カフェの出店が増加。

渋谷・代官山ではクリエイティブ層向けの空間演出型カフェが、下北沢や高円寺ではカルチャーを取り込んだ個性派カフェが人気を集めています。

また、テレワーク・打ち合わせ需要に対応した長居しやすい設計も、東京のオフィス密集地ならではの特徴です。

3位 バー(611件)

ナイトタイムエコノミーが復調する中、東京ではミッドタウンや六本木、銀座を中心に、海外旅行者向けの英語対応バーやクラフトジン・日本酒専門バーなど、テーマ性のある小規模店が増加。

“隠れ家感”や“非日常性”を演出した店づくりが、都会の余暇時間を豊かに演出する手段として評価されています。

都心部に共通する業態傾向

東京・大阪ともに「飲み屋・カフェ・バー」が上位を占めているのは、都心ならではの人流と都市構造が影響しています。

- 昼夜を問わず人が行き交うため、時間帯ごとの需要が生まれやすい
 - オフィス・繁華街・住宅が近接し、短時間利用のニーズが高い
 - 感度の高い消費者が集まり、個性的な業態が受け入れられやすい
 - 再開発や観光需要により、新規出店のチャンスが多い
- こうした都市特性が、多様な業態の開業を後押ししています。

全国と比較した東京特有の飲食店3ジャンル

東京らしさを象徴する飲食ジャンルとは？



各国料理(東京比率:24.6%)

多文化都市・東京を象徴するジャンルです。
外国人観光客・在住者の多さ → リアルな生活ニーズ×観光需要が共存しています。
新大久保や池袋などを中心に、韓国・タイ・インド・ペルーなど多国籍な専門店が日常に溶け込んでいます。生活と観光が交差する多文化の食空間が、東京ならではの特徴です。



専門料理店(東京比率:15.0%)

東京では「これを食べるために訪れる」という目的来店型業態が多く存在します。ミシュランの星付きレストランや、1日数組限定のコース料理店、独立したシェフが表現の場として立ち上げる少席店舗などが代表的です。

料理が“体験”として消費される都市ならではの傾向です。



寿司店(東京比率:23.1%)

外国人が日本で「一番食べたい料理」=寿司。
寿司は、日本を代表する食文化でありながら、東京ほど多様な寿司体験を提供できる都市は他にありません。
高級寿司の聖地・銀座をはじめ、新宿・恵比寿・中野・築地などでは、立ち食い寿司、回転寿司、寿司×ワインなどのカジュアル業態も広がり、“一食数万円”から“1貫100円”までの体験格差が共存しています。

東京という都市の本質

「各国料理」「専門料理店」「寿司店」の3ジャンルは、東京という都市の本質である、多文化共生、高付加価値、伝統と革新の融合を象徴する存在です。
それぞれが、単なる飲食ではなく、文化体験・情報発信・都市ブランドの構築といった多層的な役割を担っており、国内外から人を惹きつける強力な磁力となっています。

これらの業態が集積することにより、東京は“食の多様性”を通じて国際都市としての魅力を体現し、観光・ビジネス両面における競争力を支える重要な基盤となっています。

東京理美容開業ランキング 2024年1月～12月



東京の理美容開業 市区町村ランキングTOP5

2024年1月～12月の理美容開業数ランキングを発表いたします。

東京の理美容開業数ランキングトップ5には、以下の市区町村がランクインしています。



1位
渋谷区



2位
中央区



3位
港区

1位 渋谷区(154件)

圧倒的な開業数を記録したのが渋谷区。若者文化とファッションの発信地として、感度の高い美容需要が集中しています。幅広い客層をカバーするマーケットの厚みが見られます。

2位 中央区(57件)

銀座・日本橋といった高所得層・ビジネス層が集うエリアに加え、都心居住者も多い中央区では、クオリティ重視のサロンや完全予約制のプライベート型店舗が多く見られます。

3位 港区(51件)

六本木・青山・麻布などの国際色豊かなエリアが多く、外資系企業勤務者やインバウンド層を含む多様なニーズに対応した理美容店舗が出店。



4位
豊島区

4位 豊島区(47件)

池袋駅周辺を中心に、学生・外国人居住者・地元住民が交差するエリアで、価格帯や業態も多様。生活密着型かつ回転率重視の開業が多く見られます。



5位
世田谷区

5位 世田谷区(46件)

住宅地として人口が多く、地元住民をターゲットにしたリピーター型サロンの開業が目立ちます。街の個性に沿った多様な出店形態が特徴です。

都心と住宅地のバランス

東京都の理美容開業数上位5エリアは、渋谷・中央・港といった都心部では、オフィスワーカーや訪日客に対応した高付加価値サロンが増えており、トレンド感や利便性を意識した店舗が多く見られます。一方、豊島区や世田谷区では、地元住民をターゲットにしたリピーター志向の美容室が主流で、生活圏内で気軽に通える立地・価格帯の店舗が支持されています。

こうした都心と住宅地のバランスが取れたエリアでの開業が特に活発であることが、東京らしい特徴といえるでしょう。

東京/市区町村別 理美容開業数ランキング

2024年1月～12月の東京の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年1月～12月 東京開業件数合計 879件

理美容 / 2024					
	市区町村	開業数			
	東京ALL	879	31	羽村市	6
1	渋谷区	154	32	三鷹市	5
2	中央区	57	32	府中市	5
3	港区	51	32	東村山市	5
4	豊島区	47	32	国分寺市	5
5	世田谷区	46	36	青梅市	4
6	新宿区	35	36	東大和市	4
7	目黒区	30	38	日野市	3
8	武蔵野市	29	38	あきる野市	3
9	台東区	25	40	荒川区	2
9	足立区	25	40	福生市	2
9	立川市	25	42	小金井市	1
12	大田区	24	42	小平市	1
13	江東区	23	42	狛江市	1
13	八王子市	23	42	清瀬市	1
15	中野区	22	42	東久留米市	1
15	町田市	22	47	国立市	0
17	品川区	21	47	武蔵村山市	0
17	杉並区	21	47	稲城市	0
19	北区	20	47	西多摩郡瑞穂町	0
20	板橋区	18	47	西多摩郡日の出町	0
20	江戸川区	18	47	西多摩郡檜原村	0
22	千代田区	16	47	西多摩郡奥多摩町	0
23	文京区	14	47	大島町	0
23	練馬区	14	47	新島村	0
25	葛飾区	13	47	神津島村	0
26	調布市	8	47	三宅島三宅村	0
26	多摩市	8	47	八丈島八丈町	0
28	墨田区	7	47	青ヶ島村	0
28	昭島市	7	47	小笠原村	0
28	西東京市	7	47	利島村	0
31	羽村市	6	47	青ヶ島村	0

2024年1月から12月にかけて、東京都全体で879件の理美容室が新規開業しました。

上位5区で約4割を占める開業集中傾向



2024年、東京都内における理美容業の新規開業は全体で879件。コロナ禍以降、都心回帰や生活密着型サービスの再評価が進む中で、美容室・ヘアサロンを中心に出店が堅調に推移しました。

都心部では高単価・トレンド重視の店舗、住宅地では地域密着・リピーター向けの店舗が多く、エリアによって異なるニーズに対応する形での出店が進んでいます。

■渋谷区が圧倒的トップに

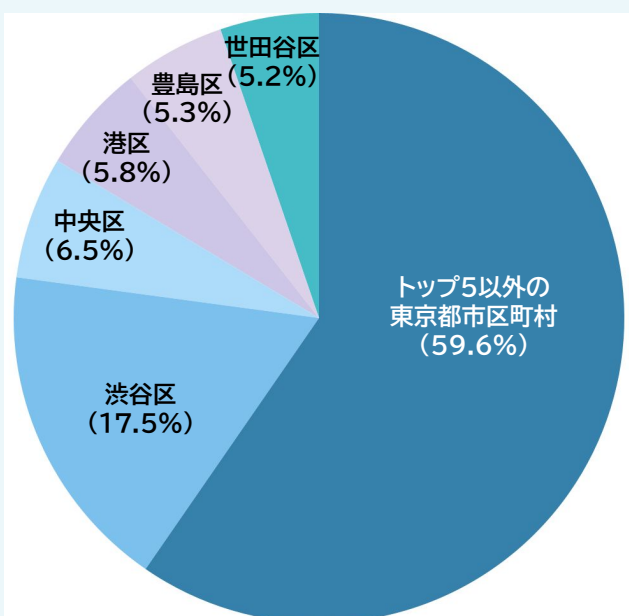
開業数1位は渋谷区(154件)で、全体の約17.5%を占めています。若年層や感度の高い利用者が集まるエリアとして、流行発信型の美容室や男性向けヘアサロンの出店が目立ち、立地の利便性も後押し要因となっています。

■上位5エリアに共通する特徴

開業上位には、渋谷区、中央区、港区、豊島区、世田谷区が並びます。これらのエリアに共通するのは、「人が集まり、生活と仕事が交差する立地」であることです。

- ・渋谷・中央・港：オフィス街＋訪日観光需要による多様な美容ニーズ
- ・豊島・世田谷：生活圏として安定した需要と価格帯のバランス

こうした都心×居住地のハイブリッド特性が、出店の土壌をつくっています。



上位5区で約4割を占める開業集中傾向

渋谷区・中央区・港区・豊島区・世田谷区の上位5エリアだけで約40%(355件)を占めており、開業の集中傾向が見られます。

中でも渋谷区は全体の17.5%を占め、圧倒的な存在感を示しています。ビジネス街・商業エリアとしての利便性に加え、若年層の多さや流行の発信地としての地位が、出店ニーズを後押ししていると考えられます。

“都市型トレンド”と“生活密着”の両立がカギ

■ 郊外・住宅地にも安定した出店

八王子市、町田市、立川市など、東京都の郊外都市でも一定数の開業が確認されています。

ファミリー層や地元住民を主なターゲットとしたリピーター志向・コミュニティ密着型サロンが中心で、都心部とは異なる安定したニーズに支えられています。

■ エリア間格差と今後の展望

一方で、島嶼部や多摩地域の一部では開業ゼロのエリアも多く、都市部との格差が大きく出ています。

今後は、都心での競争激化に伴い、地域特性を活かした専門業態や個性ある小規模店舗の展開が鍵になると考えられます。



東京都の理美容業界：社会課題と戦略トレンド

1. 高齢化社会が生む「アクティブシニア市場」

日本では65歳以上の人口が急増しており、“若々しくありたい”高齢者向けの美容サービスが急成長中です。東京都内のサロンでも、シニアを対象としたメイク講座やヘアスタイリング講習が注目されており、「健康＋美容」に価値を見出す高齢層のニーズに応えています。

2. 労働力不足への対応——セルフシャンプーや時短サービス

2024年、日本の美容業界では人手不足や物価高騰が深刻化しています。

例えば、チェーン展開する低価格カット専門店は、セルフドライヤー設備などを導入し、スタッフの負担軽減と回転率向上に成功しています。

東京都内でも、時短・ローコスト運営モデルが注目の戦略となっています。

* 東京都の理美容業は、“人口構造の変化”や“働き方の多様化”といった社会課題に
応えながら、体験価値×信頼性×効率性を融合させる進化が求められています。
この視点に立った業態開発やマーケティング戦略が、今後の成長のカギとなるのでは
ないでしょうか。

東京 × 飲食&理美容 × 人口数 ～人口と開業数の関係～



東京 × 飲食&理美容 × 人口数

ここからは、飲食店や理美容店の“出店密度”を読み解くために、人口との関係性に目を向けてみたいと思います。飲食・理美容の開業が“どこで多いのか”だけでなく、“なぜその場所なのか”を人口データとともに掘り下げていきましょう。

市区町村	2023年			2024年		
	飲食店 開業数	理美容 開業数	人口数	飲食店 開業数	理美容 開業数	人口数
ALL	10,212	1,104	13,841,665	8,326	879	13,911,902
世田谷区	455	69	915,439	293	46	918,141
練馬区	184	12	738,914	117	14	741,540
大田区	373	29	728,425	327	24	733,634
足立区	366	32	690,114	246	25	693,223
江戸川区	225	28	688,153	211	18	689,961
板橋区	187	20	568,241	139	18	572,927
杉並区	330	34	570,786	293	21	572,843
八王子市	139	22	562,145	117	23	560,692
江東区	249	29	532,882	298	23	539,108
葛飾区	186	29	464,175	167	13	467,000
町田市	134	21	430,831	116	22	430,380
品川区	298	18	404,196	248	21	408,280
北区	197	11	353,732	162	20	357,701
新宿区	1284	50	346,279	1081	35	349,226
中野区	263	21	333,593	273	22	337,377
豊島区	423	53	288,704	368	47	291,650
墨田区	149	10	279,985	133	7	284,555
目黒区	133	38	278,635	101	30	279,520
港区	1007	79	261,615	474	51	266,306
府中市	58	14	259,924	57	5	260,078
調布市	75	11	238,505	51	8	238,774
文京区	236	12	229,653	200	14	232,177
渋谷区	648	188	229,412	644	154	230,609
荒川区	84	8	216,814	95	2	219,268
台東区	397	22	207,479	304	25	212,388
西東京市	67	10	205,876	58	7	205,899
小平市	35	3	196,924	36	1	196,913
三鷹市	25	3	189,916	23	5	189,959
日野市	31	4	187,254	30	3	187,494
立川市	118	22	185,483	94	25	185,825
中央区	613	73	174,074	517	57	176,835
東村山市	52	5	151,814	33	5	151,751
武蔵野市	119	38	147,964	119	29	147,809
多摩市	37	6	148,210	29	8	147,776
青梅市	41	8	130,274	35	4	129,468
国分寺市	43	10	128,238	55	5	128,762
小金井市	38	3	124,756	28	1	124,614
東久留米市	30	8	116,839	16	1	116,512
昭島市	29	5	114,259	29	7	114,516
稲城市	24	2	93,421	16	0	93,781
東大和市	24	5	84,870	30	4	85,085
狛江市	26	1	82,749	34	1	82,102
あきる野市	21	2	79,807	14	3	79,513
国立市	23	4	76,168	19	0	75,889
清瀬市	23	1	74,702	17	1	74,596
武蔵村山市	12	1	71,296	8	0	71,018
千代田区	565	21	67,911	467	16	68,755
福生市	51	5	56,201	36	2	56,512
羽村市	41	3	54,504	37	6	54,416
瑞穂町	6	0	32,161	1	0	32,062
日の出町	4	0	16,409	2	0	16,300
大島町	8	0	7,150	9	0	6,982
八丈町	9	0	7,053	4	0	6,968
奥多摩町	1	0	4,746	9	0	4,603
小笠原村	2	0	2,581	1	0	2,600
新島村	4	0	2,495	1	0	2,453
三宅村	5	0	2,301	1	0	2,254
檜原村	1	1	2,038	2	0	1,986
神津島村	1	0	1,813	0	0	1,775
利島村	0	0	317	1	0	314
御蔵島村	1	0	292	0	0	291
青ヶ島村	2	0	168	0	0	156

※2024年の人口数が多い順に記載。
出典:東京都「区市町村、世帯数、男女別人口(人口総数)及び人口密度」(東京都 総務局統計部)

人口と開業数の関係は？

2023年・2024年の人口と開業数を照らし合わせることで、開業の背景や立地特性を明らかにしていきます。

「人口が多い＝お店が多い」とは限らない？

飲食店や理美容店の開業数は、「人がたくさん住んでいる場所」で多いと思われがちですが、実際のデータを見ると、人口の多さと開業数が必ずしも比例しているわけではないことが分かります。

■ 開業が多いのに人口は少ないエリア：渋谷区・中央区など

たとえば、渋谷区の人口は約23万人と、世田谷区(約92万人)に比べて約4分の1しかいませんが、飲食や理美容の開業数では渋谷区が上回る結果になっています。

これは、渋谷が「若者の集まる繁華街」「観光地」「オフィス街」として、**昼間人口や来街者数が非常に多い**ため。住んでいる人の数よりも、毎日そこに集まる人の多さが、開業数に影響を与えていると考えられます。

同様に、中央区や港区も、居住人口は多くないものの、**ビジネス街としてのニーズや観光客の集客力**があるため、理美容・飲食の開業が非常に活発です。

■ 人口がなくても開業が控えめなエリア：郊外住宅地に多い傾向

一方、世田谷区や練馬区のように、人口がなくても開業数がそれほど多くないエリアもあります。これは、こうしたエリアがファミリー層中心の落ち着いた住宅地であることが理由のひとつです。

商業施設の密度や集客力が都心に比べて限定的であるため、小規模で地域密着型の出店が中心になります。

大規模な集客を見込むよりも、**リピーター重視・地域との関係構築型**のビジネスが多く、開業数としては都心部に比べて控えめに見えるのです。

開業数を読むには「人口」+「街の性格」が大事！

- 人口がなくても、開業数が少ないエリアがある(例:住宅街)
- 人口が少なくても、開業数が多いエリアがある(例:繁華街・ビジネス街)
- 人口1万人あたりの開業数を見ると、その街の「出店しやすさ・商機」が見えてくる
- 開業の背景には、観光・通勤・商業施設・ライフスタイルなど複数の要因が絡んでいる

開業データを正しく読むには、件数の多い少ないだけでなく、「なぜそこに店が多いのか？」
「どんな人がそのエリアに集まっているのか？」を考えることが大切です。

人口10万人あたり開業数から見る「開業密度」の違い

飲食店・理美容店の開業は、単純に人口が多いから多いというわけではなく、「開業密度(=人口に対する開業の集中度)」を確認することで、より地域の特徴が浮かび上がります。

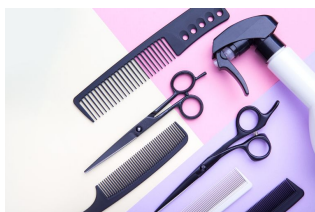


飲食店の特徴

■千代田区では、人口わずか6.8万人に対して467件の飲食店が新規開業。これは人口10万人あたり約687件という圧倒的な密度です。背景には、日中に大勢が訪れる「ビジネス街」としての特性があり、実質的な“利用人口”が多いことが要因です。

■中央区(約293件/10万人)や新宿区(約310件/10万人)も同様に、高い開業密度を記録。都心部では通勤・観光・商業利用が重なり、常に一定以上の需要が見込めることがわかります。

■一方、世田谷区(約31件/10万人)や足立区(約35件/10万人)といった住宅地では、密度としては抑えられており、生活圏に根差した店舗が多い傾向にあります。



理美容室の特徴

■渋谷区(約67件/10万人)がトップで、流行に敏感な若年層の多さや立地の利便性が開業数に表れています。

■中央区(約32件/10万人)や港区(約19件/10万人)でも、ビジネスパーソンやインバウンド対応を狙ったサロンが目立ち、都心部の密度が高くなっています。

■対照的に、練馬区(約1.9件/10万人)や江戸川区(約2.6件/10万人)など、郊外では開業密度が低め。日常使いのサロン需要が中心で、出店のタイミングや競合の少なさも影響していると考えられます。

このように、同じ開業数でも「密度」の見方を変えることで、地域の役割や需要のタイプが浮かび上がります。

今後の出店戦略においては、単なる「人口」ではなく、「人の動き」「昼夜の人口差」「生活・観光・通勤の混在」といった視点を加味することが重要ではないでしょうか。



TOKYO 飲食・理美容
開業レポート ver1 まとめ

東京開業レポート ver1 まとめ

「東京って、出店しやすい街なの？」

そんな問いに、2024年のデータが力強く応えます。

飲食店は8,326件、理美容は879件の開業。

この数字は、日本の首都、東京が今も“挑戦の都市”であることを物語っています。

でも、それはただの数ではありません。

駅前、路地裏、ビルの一角、都心、郊外、島しょ部まで——

「なぜここに？」「どうして今？」

出店の一つひとつに、東京という都市で生きる人たちの“らしさ”と“理由”が込められています。

「世界のTOKYO」と「生活の東京」が交差する開業のかたち

渋谷、銀座、池袋、新宿……世界に開かれた東京の顔。

でも同時に、地元の小さな商店街や住宅地にも、個性あふれる飲食店やサロンが静かに根づいています。

東京の魅力は、その多層性にあります。

誰かの「新しい挑戦」が、誰かの「日常の風景」になっていく——

そんな連続が、この都市を動かしています。

東京という“選ばれる都市”で、誰が、なぜ、店を開くのか？

SNSで話題の「itameshi」や「エスニック系レストラン」

→ 多様性を受け入れる都市だからこそ、ジャンルの掛け合わせや挑戦が許される。

高単価でも予約が埋まる“体験型サロン”や“1日数組限定の専門店”

→ 価格ではなく、「意味」や「ストーリー」で選ばれる東京の消費スタイル

出店する人にとっては、

「この街で勝負したい」

「誰かの記憶に残る場所をつくりたい」

そんな“意志ある開業”が目立つようになってきました。

東京開業レポート ver1 まとめ

どこで、誰のために、何を届けるのか

単に“モノやサービス”を提供するだけでなく、「体験」や「意味」を届ける場として機能しています。数字の裏には、都市としての成熟と、そこに向き合う出店者たちの多様な動機があります。

この街に、みんなの挑戦が重なるとき

東京は常に変化の中にあります。
トレンドと共に消費の在り方も、暮らしの形も変わっていきます。
でも変わらないのは、「人が集まり、動き、出会う都市」であること。

皆さんの届けたい価値は、どの街で響くでしょうか？
この都市の中で、“挑戦の居場所”がきっと見つかるはずです。

ふらっと立ち寄ったカフェ。いつもの美容室。

それは、誰かの想いが形になった場所であり、
その店を選ぶという行動が、その想いに応える一票でもあります。

小さな選択の積み重ねが、街の風景を変えていく。
東京という都市は、静かに、でも確かに、“新しい挑戦”を受け止める場所です。

このレポートが、飲食・理美容業界に携わるすべての方にとって、
日本の首都東京という街の魅力と、これからの業界の発展の一助となれば幸いです。

2025年、そしてその先へ——
東京そして、業界のさらなる発展を願い、このレポートをお届けいたします。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 五味川
E-mail: gomikawa@re-view.co.jp
TEL: 06-7730-9109

Re:view